

授業を始める前に

学校の授業のようにではなく、部外者として生徒たちと関わりたいと思ったので、最初に生徒たちをリラックスさせて彼らの心の中に大まかな枠組みを作っておくことは大切なことでした。ここに記録された対話はその時のものです。

① 私はあなたたちの音楽への関心について少し知りたいと思っています。②あなた方も知っているように、私は音楽の教師ではなく作曲家です。③そこで、最初あなたたちの好きな音楽と好きでない音楽のリストを作ることから始めようと思うのです。だれでもみんなお気に入りの音楽と、たぶん同じくらい嫌いな音楽があると思います。④その個々の曲名を挙げるのではなくジャンルで教えてください。たとえば「室内楽」とか「ジャズ」とか皆さんが好きな音楽と嫌いな音楽を挙げてくれたら、私が黒板に書いていきます。⑤好きな音楽を“OK-MUSIC”、嫌いな音楽を“NON-OK MUSIC”としておきましょう。

⑥回答が出て、黒板に記録されていきます。しばらくして次のような結果になりました。

⑦OK MUSIC

ジャズ
ポピュラー音楽
室内楽
オペラ
カントリー・ウェスタン
バンド音楽
ミュージカル
クラシック・ポップス・コンサート

NON-OK MUSIC

民謡
オペラ
ジャズ
現代・電子音楽
交響曲
カントリー・ウェスタン

⑧これはおもしろい。両方の欄に入っているものがあるね、これは何を示しているんだろう？

⑨みんなそれぞれ音楽の好みが違うということだと思います。

⑩それはいいことだと思うかい、それともよくない？

⑪いいことだと思います。だって、たくさんの個性があるわけだし、それぞれの個性に合った個々の音楽があるというわけだから。

⑫ということは、誰もがある種の音楽を好んでいて、それがその人の個性を反映しているということ？あなたは種類の音楽だけが好きですか？

⑭私はカントリー・ウェスタンが好きです。

⑮だけ？！

⑯バンドミュージックも好きです。

シェイファー： ①（クラス全体に向かって）一種類の音楽だけが好きな人はどのくらいいるかな？
手を挙げてみてくれるかな？ 挙手なし
②一種類より多い人？ 全員挙手
③よろしい。じゃあ、ちょっと比較してみようか。このクラスには信仰を持っている人がいるかな？
④プロテスタントのいくつかの宗派の生徒とユダヤ教の生徒がいました。
⑤じゃあ、質問させてください。二つの信仰をもっている人はいますか？

挙手なし

⑥君たちはそれぞれ一つの信仰を守っています。⑦でも音楽への関心については一種類のみ、と制限されているわけではないのです。⑧君たちは良心の呵責を感じることなく、他の種類の音楽を好きになることができるのは明白なことです。⑨これは芸術における評価と知的な活動における評価の重要な違いなのです。⑩宗教上は—あるいは政治や哲学においても同様ですが—あなたが自分にとって最も理にかなったと思う一つの体系を受け入れるということは、同時に他の体系をすべて無効にするということなのです。⑪あなたたちは共産主義者であると同時に資本主義者ではいられないように、キリスト教徒でありながらユダヤ教徒ではいられないのと同じことなのです。⑫けれども芸術活動における評価はこれとはまったく違って、もっと包容力に富んでいます。前にあなたが楽しんでいたものを否定するのではなく、もっと世界を広げていくというような累積的な、とでもいえるものなのです。

⑬だれかこの意見を個人的な経験から確認してくれないかな？

生徒： ⑭ええ、私は昔ジャズが好きでした。今はその他にベートーヴェンが好きだけれど、やっぱりジャズも好きです。

シェイファー： ⑮たぶん君たちのほとんどが同じような経験をしていると思います。すべての芸術において、いろいろな人たちが数々の（対象に）熱中し、さらにいろいろな意見をもっているという事実を認め、それらについて寛大に取り扱うという姿勢をもたなければならないのです。⑯音楽はもともとちょうど君がふれた二つの種類の音楽に分けられていたと言えるだろうね。⑰ベートーヴェンの音楽は150年ほど前にヨーロッパ貴族の気晴らしのために書かれたものであるのに対して、ジャズは奴隷にされた北アメリカの黒人の音楽表現として発達したものだ。⑱ひとは貴族から、そしてもう一つは奴隷からというわけさ。⑲今日では、私たちは貴族でも奴隷でもないけれど、両方の音楽を客観的に鑑賞できるだろう。よくない音楽を好むからと言って宣戦布告はしないよね？

生徒： ⑳いろんな国の軍隊は、それぞれの国歌で行進しますよ。

- Schafer : ①ああ、でも軍隊は国歌のメロディーに異議申し立てはできないわけだから、それで戦争をしているとは言えないよね？②このケースの場合、音楽が音楽以外の何かを支援するために使われている例になるね、この場合は政治的イデオロギーということになる…
- 生徒 :
- Schafer : ③そう、人は政治においては激論を交わすものだけど、ピアノ演奏者が間違っただけのメロディーを弾いたからと言って撃ったりはしないよね。
- 生徒 :
- Schafer : ④それじゃ、まるで音楽は重要なものじゃないように聞こえる。
- 別の生徒 :
- Schafer : ⑤音楽は重要なものなの？
- 別の生徒 :
- Schafer : ⑥私はそう思います。
- Schafer : ⑦人がそのために戦わないから重要ではない、ということについて話を続けることは必要かい？
- 生徒 :
- Schafer : ⑧たぶん、重要なのはこれじゃない？音楽は人を分類するのではなくひとつにすること。
- Schafer : ⑨いいですね！音楽の中にこんなに違った意見があるということ…。⑩私たちはどんなふうに次のテーマについて結論を引き出すことができるだろうか。たとえば私が室内楽を好きでヒットパレードが嫌いだということにして、君たちの場合はまったく立場が逆になるという現象についてなんだけど。
- ⑪先生たちって室内楽が好きに決まっているよね…
- ⑫誰か後ろのほうで仮説を立てているようだね。私もひとつやってみようか。「ティーンエイジャーはヒットパレードに夢中である」いつもヒットパレードを聴いている人？
- クラスの7割の挙手あり。
- ⑬比率から見ると私の仮説は正しかったね。今私たちがやったことはティーンエイジャーとヒットパレードのグループと後ろにいる先生方と室内楽のグループを分類したことだね。
- ⑭このように、ある種類の音楽はある人たちの階級の代表としているように思えるのですが、（にもかかわらず）私が本当に君たちに心に留めておいてほしいのはとてつもなく広い概念なのです。私がティーンエイジャーを嫌いだとしましょう—本当はそうじゃないことはわかってくれるよね—仮にそうしておきましょう、私の音楽の好みに出てくる結果はなんでしょう。
- 生徒 :
- Schafer : ⑮きっと音楽も含めてティーンエイジャーの何もかもがきれいになると思う。
- Schafer : ⑯たぶんね。でもティーンエイジャーをきらいだということが本当に音楽をやる時になにか関係があるのだろうか？だって抽象芸術において、ですよ。
- 生徒 :
- Schafer : ⑰あるべきではないけれど、そんなこともあると思う。
- Schafer : ⑱私たちはある種類の芸術とある人々やグループとを結びつける傾向があって、これは私たちの鑑賞においては疑う余地のない心の動きなのです。⑲私はずっと人間と音楽を切り離すことが可能かどうか、そしてそれを純粋な形式として客観的にみることができののか考えていました。私はそれが完全にできるとは思っていません。⑲私は時にはこの方法をやってみて、私たちの音楽の好みが発展し変化しているかどうか知ること必要だと思うのです。⑲ことばを整理して、社会の枠組みを突き抜けて音楽自体に語らせましょう。⑲私はヒットパレードを聴くことを拒絶するという偏見で自分を盲目的にしたくないし、君たちにも室内楽を聴くことを拒絶するという偏見で君たち自身を盲目的にしてほしくないのです。⑲音楽はある特定の人やグループの私的な所有物ではないのです。

シェイファー

①もしかすると、どの音楽作品もすべての人々のために書かれたと言っていいかもしれません。

②私が本当にあなた方に言いたいのは、音楽に対して好奇心を持ち続けてほしいということなのです。③あなたの、今の音楽の好みに安住することに満足しないでください。④前に話したように新しい音楽への好みによって、以前の音楽の好みに背くことにはならないのですし、音楽の視野はどんどん膨らんでいって、あなたの人生において新しい事柄を発見させてくれることになるでしょう。もちろん、私はあなた方が出会うものすべてを好きになれとっているわけではありません。⑤愚かな人々だけがそんなことをするのは。私はただ、あなた方が興味深い音楽を発見したいのなら、それを探さなければならないと言っているのです。

⑥それはちょうど図書館に行くのと同じです。⑦あなたは読みたい一冊の本に出会う前に20冊もの本を読まなければならないかもしれませんが、もしその20冊を読まなければ、読みたかった一冊に出会うことはできません。⑧そして不思議なことには、今年見つけたその本は、来年あなたが選ぶ本と同じではないだろうということなのです。⑨時間というものは、本当に私たちに新しい好みを獲得することを強いるものなのです。⑩私たちは一生マンガを読むわけではないでしょう？

生徒

⑪そうする人もいますよ。

シェイファー

⑫40歳になってもマンガを読んでいる人がいたらどう思う？

生徒

⑬発育停止の人だといいたいな。

笑い声

シェイファー

⑭そうだね。そして生涯を通じて、新しい音楽に対する興味の対象への熱中を獲得することなしに同じ音楽を好む人もまた発育停止の例なのです。

⑮かつて誰かが「趣味を養う」という精神にとって最も大切なのは感性と知性のふたつだと言ったことがあります。私はそうとは思わなくて、むしろ勇気と好奇心だと言いたいと思います。

⑯好奇心は新しいものや隠されたものをしっかり見ること、勇気は自分の感覚をほかの人の意見や考えにとらわれずに変えていくことです。⑰独自の音楽の趣味をもっていて、他の人に笑われてもかまわないという事の出来る人は本当の勇気を示しているといえるのです。

⑱そうすることが社会的に有利だからそうする、という人のことをスノップというのです。

⑳音楽を聴くということはとても深遠で個人的な事柄です。社会が今日のように画一的で型にはまったものになりつつあるとき、芸術において独立した精神と趣味をもつことは独立した個人であることの本当の勇気をあなたにもたらずでしょう。

㉑きちんと音楽を聴くという行為は、あなただけの独自性を引き出すのに役立つでしょう。

ベルが鳴って授業終了

音楽ってなに？

- ① 思い違いの大半が、「音楽ってなんですか」という基本的な問いかけによって明らかになります。②（私たちが到達した）興味深い結論は今日の音楽シーンを重視したもので、OEDの定義とも音楽鑑賞のパンフレットとも一致していないようにみえるかもしれませんが、いろいろな種類の音楽を学んでいる学生たちにとって有用で“生きた”恩恵（を与える）となる音楽の定義とは思えないかもしれません。

シェイファー

④私は学生時代に手を使わずにらせん階段を描くように言われたことがあるんです。とても難しいのですよ、不可能ではないのですがね。⑤さて、今日私は答えるのにとても難しい質問をしようと思っています。もちろんこれも不可能ではありませんよ。⑥私はみんなで話し合っ、定義をつくることができるかもしれないと考えたのです。⑦質問は「音楽とは何か」です。⑧私たちの人生の中に起こる最も悪い事のひとは、それが何なのか、なぜそれをするのかを知らないまま進むことです。⑨君たちはみんなこれまで何年も音楽をやってきたし、これから先もずっと続けてほしいと思っています。⑩でも君たちがこんなに長い時間を費やしてやってきたことは、いったい何なのでしょう。何かははっきりした定義づけがありますか。

⑪はじめはためらいがちに、それからだんだん元気よく意見が出て、黒板に書き出されました。

- ⑫音楽はあなたが好きなもの
- ⑬音楽はリズムとメロディで作られたもの
- ⑭音楽は耳に心地よい音
- ⑮音楽は芸術
- ⑯音楽は芸術
- ⑰音楽は音に関わる文化的な活動

シェイファー

⑱始めるのにはこれで十分だね、必要だったら書き直してもいいですよ。しっかりみていきましょう。最初のはこれだね、「音楽はあなたの好きなもの」。

シェイファーはプレイヤーの方に進み、最初に手に取ったレコードをかけた。それは偶然 Dave Brubeck の録音による “Raggedy Waltz” “Time Further Out” だった。

シェイファー

⑲今のは音楽ですか？

P10

クラス

⑳（不思議そうに）はい。

シェイファー

㉑ジャズを好きじゃない人、全員立ってくれますか？

㉒数名起立

シェイファー
生徒 シェイファーは立っている生徒の一人に①君はジャズが嫌いなんだよね。
②はい、大嫌いです。
シェイファー ③でも君は今聞いたのが音楽だと認めるんだね。
生徒 ④はい。
シェイファー ⑤ちょっとなんだか変だぞ。「音楽はあなたが好きなもの」と定義されたよね。私
たちはあるジャズを聴いて、それが音楽であることを確認したね。でも君はジャズ
が好きじゃないという。音楽はどうだったらいいんだい？
生徒 ⑥定義に何か悪いところがあるんだと思う。
シェイファー ⑦明らかにこれでは不十分だね。⑧「音楽はあなたが好きなもの」と言い切るには、
何か個人的すぎるものがあるようだ。⑨大きな疑問は「あなた」とは誰なのか、そ
して何があなたに音楽とその他の音楽ではないものとの区別を与えるのかという
ことです。
⑩音楽が何であるにせよ、はっきりしているのは音楽は一人の人間の喜びに依存し
ているわけにはいかないのです。⑪だから、それは前の定義よりもっと一般的な何
かであるべきなのです。
⑫三番目の定義、「音楽は耳あなたの耳に心地よいもの」についてはどうですか。
⑬ここにも論争のまよになって削除した個人的すぎる「あなた」と、すべての音楽
を聴く人の耳の構成集団を置き換えることになりますね。これはどうだい？
生徒 ⑭ええと、誰の耳にも心地よい音と、そうでない音があるということです。道路の
音は音楽じゃない。
シェイファー ⑮道路でブレーキをきしませる音は音楽じゃないの？
生徒 ⑯違う！
シェイファー ⑰どうして？
⑱間があってコメントなし。
⑲よろしい。この問題はちょっと置いといて、またあとで考えることにしよう。で
もみんな騒音は音楽じゃないというんだね。
⑳同意のうなずき
㉑よろしい。じゃあこれは？
㉒シェイファーはドラムのところに行って、リズムカルに数回たたく。
㉓これは音楽？
㉔はい。
㉕教室の後ろに大きなゴミ箱があります。このゴミ箱も数回リズムカルにたたかれ
ます。

- シェイファー
クラス
シェイファー
生徒
P11
シェイファー
バスドラム
シェイファー
シェイファー
生徒
シェイファー
生徒の声
シェイファー
- ①あれは音楽ですか。
②違う！
③驚いて—おや、どこか違いがあるのかな。だれか（その違いを）言ってみてくれるかな？
④ドラムにはきちんとした一定の音があるけど、ゴミ箱はただのやかましい音（騒音）だから。
⑤だれかバスドラムの音、教えてくれるかな。
⑥A だと思う。
⑦よろしい。（ドラムをたたきながら）みんな、A で歌ってごらん。
⑧混乱の結末。ほとんど生徒の数だけ異なった高さの音が歌われた。
⑨奇妙な A だね（笑い声）。私には君たちがバスドラムが一定のピッチをもっていると誤解させられていると思うよ。⑩時としてオーケストラの中でほかの楽器と一緒に演奏されていると、それが一定のピッチをもっているように思えるけど、実際のところはそれ自身には一定のピッチはないのさ。⑪（ドラムの出した）音はゴミ箱の出した騒音と同じ騒音なのです。
⑫規則的な振動と不規則なそれとの間の違いについての短い対話が続く。
⑬単なる騒音から一定のピッチをもつ音との区別をすることが示された。
⑭これに続いてシェイファーは再びドラムとゴミ箱のところに行って、同じようにそれをたたいた。
⑮さあ、どうだろう。まだ片方は音楽で、片方はそうでないと思うかい？
⑯時々オーケストラで、ゴミ箱のように騒音を出すために使われることがあります。たとえば鉄床です。
⑰そうだね！他に何か考えられるかい？
⑱カウベル！ Sandpaper blocks！ 笛！ タイプライター！
⑲よろしい！ 私はゴミ箱が音楽をつくれるかどうかというこの問題について、もう一度考えてみてほしいと思う。⑳でも今は私たちの定義、「音楽は耳にこちよいもの」について考えてみよう。
㉑この学習を進めるために、私は君たちに課題をだすつもりです。㉒さあみんな、自分の楽器を出して演奏できるように準備して。
㉓それぞれの生徒が楽器を準備した。オーケストラのすべての楽器が揃っています。
㉔ここに君たちの課題があります。㉕君たちはヒッチコック氏から彼の最新のホラー映画の音楽を依頼されました。㉖私たちは今日、犠牲者が陰気な家に入っていくという特定の場面の音楽をつくっています。㉗殺人者はドアの陰に隠れていて、ある瞬間にさっと伸びあがって犠牲者をつき殺すのです。㉘私たちはこの劇的な場面を自分たちの音楽でどんなふうに盛り上げることができるだろうね。

①生徒たちはたくさんの提案をする。②犠牲者が建物に入っていく時の伴奏として、生徒たちは弦の低い音程の小さなトレモロで始めて、だんだん大きくしていった犠牲者がドアをあける瞬間に突然演奏をやめる、という案に落ち着いた。③殺人者が完全に飛び出したとき、オーケストラはスフォルツァンドで和音を演奏する。でもどんな和音？④これが次の討論の問題となった。⑤誰かが音を出してみたら問題じゃないかもしれないといった。そこでみんなで試してみた。みんなの意見ではG Majorは明るすぎるとして不採用になった。⑥⑦だれかがG Minorではどう？というのでG Minorでやってみた。⑧クラスはまだ満足できない。⑨彼らは（この音楽が）ありきたりで、（聴いている人を）十分に怖がらせるほどじゃないと思ったのだ。

シェイファー

⑩私もきっとヒッチコック氏も君たちと同じ意見だと思うな。⑪みんなはっきりわかるよね、この緊迫した残忍な状況を表現するには、私たちには極度の緊張（表す）の和音が必要なんだ。⑫ちょっと意見をいってもいいかい？みんな隣の人がなんの音を出そうとしているか調べて、それ以外の音を出すんだ。⑬好きな音を選んでいいよ、でもできる限り大きな音を出すんだ。私の合図で、いいかい！
⑭クラスはおおいに面白がって熱心に取り組んだ。⑮結果は著しいもので、創り出された音は本当に恐ろしいものだった。

シェイファー

⑯私たちの中には何人かの歌い手がいるよね、なのにまだ彼らに役割を与えてないよ。⑰彼らを仲間に入れるにはどうしたらいいだろう。

生徒

⑱僕は歌と一緒ににはできないと思うな。⑲歌では（この場面に）ぴったりくるような歌は歌えないと思う。

歌い手

⑳私たちは怖い歌なんか知らないし。

シェイファー

㉑じゃ、誰かがナイフを振りかざしてドアの後ろから飛び出してきたら、君はどうする？

歌い手

㉒叫ぶと思う。

シェイファー

㉓なるほど…

㉔クラスは納得したらしい。

歌い手

㉕みんなが和音を演奏している時に叫び声をあげたらいいの？

シェイファー

㉖声を限りにね。いいかい！はじめ！

㉗一連の音楽が今度は声も入れて繰り返された。㉘実際音は肝をひやすようなもので、何人かの女の子は耳を覆って、肩を抱いた。㉙3人の先生が「どうした！」と駆け付けた。P13 誰もがきっとヒッチコック氏も喜ぶだろうと確信した。

㉚さて、誰ひとりとしてこの音が耳に心地よいものだとは思わないよね。㉛でも音としては、私たちの目的に効果的だったね。㉜おこがましいけど、これは音楽の音だよ、だって映画のために音楽を書くことを頼まれたんだからね。㉝でももしそうなら、私たちの音楽の定義、「耳に心地よい音」というのはどうなるんだろう。㉞明日までに考えてきてください。

㉟ベルがなって、授業は終わり。

①次の日。

シェイファー：

②私たちは音楽とは何かという問題について考えているんだったね。③昨日はホラー映画の音楽をつくった。④今日はレコードを聴くことから始めたいと思っているんだ。⑤その中では語り手が話すのと同時にオーケストラと合唱が同時に演奏している。⑥彼はワルシャワのユダヤ人居住区でナチスの迫害を受けた数少ない生き残りの一人なんだ。⑦彼は当時のことを思い出しながら描写していく。

⑧シェーンベルクの「ワルソーの生き残り」が演奏される。⑨悲哀と憎悪が混じったテキストからなるこの作品は、激しくドラマチックだ。⑩クラスにはたくさんのユダヤ系の生徒がいたので曲が終わったときには、沈鬱な雰囲気になった。⑪しばらくして、クラスはもとの状態にもどって質問を続けることができるようになった。

シェイファー：

⑫仮に昨日の私たちの音楽が本当の音楽であったかどうかについて異論のある人がいたとしても、今聴いた音楽が力強く、感動的な音楽であることを否定する人がいるとは思わない。⑬誰か意見のある人は？

生徒：

⑭私は音楽が悲劇を描写するのにとても効果的であると思いました。⑮言葉が完璧にその状況を描写している場面がいくつかありました。⑯たとえば“moaning and groaning”という言葉の部分ではオーケストラのすべてがそんな痛々しい音をつくりだし、言葉をより力強くしていました。

生徒2：

⑰私はドイツ将校の部分の方がより効果的だったと思いました。⑱それは彼の憎々しげな性格をととてもよく表していました。

生徒3：

P14⑲私が一番劇的な場面と思ったところは、語り手が死んだユダヤ人たちのコーラスが聞こえたと思ったその時に突然合唱になるところでした。

シェイファー

⑳あの部分は間違いなく、作品の変わり目にあたります。㉑そこまでは完全に否定的な気分が作品を支配しています。㉒あなた達はこの作品を描写するのに「痛み」と「憎悪」という言葉を使いました。㉓しかし死んだユダヤ人たちの合唱が加わり（曲は）肯定的な主張を始めるのです。彼らの歌には責め苦（の恐怖）が絶えずつきまとっていながらも、驚くべきことに大変強い決意を示しているのです。

㉔それはまるで作曲家が「お前たちがユダヤ人を殺しても、ユダヤ人の記憶を殺すことはできない」とでも言っているようだ。㉕しかし、私たちの関心はこの作品を私たちの音楽の定義「音楽は耳に心地よいもの」と並べておくことができるかということですね。㉖私はどうも両立しないような気がするのだけど…どうかな。㉗どちらか（を採用）にしないとな。

生徒：

㉘定義の方をとる。

シェイファー

㉙うん、そうなるね。

㉚定義というものはすべて（の項目）を満足していなければならないからね。？？？

㉛それはみんな結合しているのです。

㉜どれかを外して定義をしてはいけないのです。

㉝「ワルソーの生き残り」でほかの定義をみてみようか。

㉞「音楽はリズムとメロディーで整えられたもの」

㉟それについてはどうだろう。

㊱「ワルソーの生き残り」にはメロディーとリズムがあった？

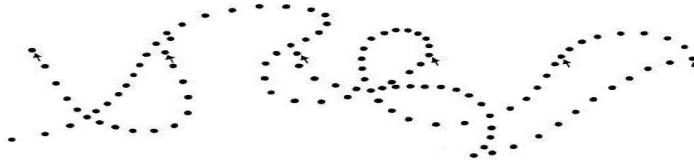
- 生徒 ①私はメロディがあると言えるとは思いません。
- シェイファー ②メロディってどんなものだと思っているの？
- 生徒 ③何か口笛で吹けたり、ハミングしたりできるもの。
- 生徒2 ④僕はそうは思わないな。僕は（あの曲には）メロディがあったと思う。たとえ口笛で吹けなかったとしてもね。ことによると、気持ちのよいものと同じように痛々しいメロディというのがあるのかもしれない。⑤もしかするとうめき声とうなり声の（部分にあたる）言葉を伴奏することはメロディのようなものなのかもしれない。
- シェイファー ⑥それは全部「メロディとは何だ？」という定義によるということなのではないかい。じゃあ、それで始めてみよう。メロディは何でできているの？
- 生徒 ⑦音のつながり。
- シェイファー ⑧どんな音？
- 生徒 ⑨どんな音でも。
- シェイファー ⑩こんなの？⑪シェイファーはピアノのところに行って、5～6個の音を違った音域で、違った強弱で弾いた。
- 生徒 ⑫そうだと思うけど、それはあんまりいいメロディではありません。
（笑い）
- シェイファー ⑬君はきっと正しいと思うよ。でも思い出してくださいね、私たちはこの授業で、定義することに挑戦しているのであって、よいメロディかそうでないかを区別しているわけではないんだからね。
- 生徒 ⑭でも、もしもメロディーがある感情を表現するとしたら、何か約束事があるのではありませんか？
- P15
- シェイファー ⑮君がそれに言及してくれてとてもうれしいよ。⑯作曲家が選んだ一連の音は—その音域、強弱そして楽器編成を含めて—ある性格をそのメロディに与えているし、次にはある感情的な反応を聴衆から引き寄せることになる。⑰「ワルソーの生き残り」のうめき声とうなり声の（部分）の伴奏の一連の音がある種の感情的な性格をもったことは明らかだね、ちょうどベートーヴェンの9番の交響曲の合唱の楽章が作曲者の意志とは異なったある種の性格をもったのと同じさ。
- 生徒 ⑱それはリズムにも応用できますか？
- シェイファー ⑲君がそれに答えられるさ。
⑳シェイファーは譜面台を軽く、でもしっかりと叩き、次にでたらめにトントンと叩いた。
㉑どちらもリズム？
- 生徒 ㉒そうだと思います。でも前の方がもうひとつのよりきちんとしている。
- シェイファー ㉓そうなんだ。強勢のいくつかの連続がリズムで、私たちはそれを秩序立ったものにすることも、混乱させることも好きなようにできる。㉔私たちはそれを拍子（節）で秩序立てるという方法を知っています。（ちょうど詩の韻律と同じようにね）そして、混乱させる方法としてはテンポルバート（盗まれた時間という意味だよ）、シンコペーション、リタルダンド、アツチェレランドなど違った拍子を使ったりしてそれぞれの拍子に単純で決定的なアクセントを与える方法があります。

シェイファー

- ① 特別な効果を得るために、徹底的に無秩序に配列されたアクセントが必要になったとします。②たとえば、私が黒板に規則的な一連の点を書いて、それぞれアクセントを表しているとします。



それから、それらの規則的な点の周りにたくさんの他の点を加えることで見分けがつかないようにすることができますよ、ほら、前の点はまだちゃんとあるのに（あとで加えた点と）区別するのは難しくなるでしょう。



P16 生徒

- ④「ワルソーの生き残り」のように思えます。

シェイファー

- ⑤大いにそうだね。「ワルソーの生き残り」は、リズム的には、ほら、ベートーヴェンの交響曲よりももっと複雑な作品だよ。でも私たちは欠けたリズム（規則的でないということ）を理解しているから、複雑なリズムで混乱することはないよね。⑥規則的でないリズム（というものは）純然たる混沌ではあるのです。たとえその一節（部分）を主張することができるとしてもね。

- ⑦じゃあ、私たちの定義のためにリズムとメロディという言葉を使い出すことができそうだね、せっかくリズムとメロディについて話し合ったのだから、それ（その意味）を使う時のやり方を忘れないでくださいね。⑧メロディは単純に組織化された音の連なりであり、リズムも組織化された強勢の連なりであること、でしたね。⑨忘れないでほしいのは「組織化された」という言葉です。⑩事実、作曲家は（いつも）たとえば通りで聞こえる騒音とは違った何かを創り出すことを考えているのです。⑪しかし私が君たちをお願いしたいのは、この秩序だった集合体は、時として大変無秩序な効果を創り出すこともできるということを忘れないようにということです。⑫なぜなら、仮に私たちが混乱した音を組織した（創り出した）としても、それでも（なお）私たちはその音を構成しているからです。⑬そういうわけで、黒板の2番目の「音楽とはリズムとメロディで整えられた音」という定義はその範囲においては完全に正確に思えるけど。

- ⑭シェイファーはドラムの方に行って、叩く。

シェイファー

- ⑮ところで、これはメロディ？

生徒

- ⑯いいえ、それはリズムです。

シェイファー

- ⑰それじゃ音楽とは言えないね。

生徒

- ⑱うーん、わからない。⑲前に先生がドラムをたたいた時には私たちはそれが音楽だといったんだけど。今はちょっとわからない。

シェイファー

- ⑳私が前に定義をつくる時に言った物事の周辺にも及ぶ定義、それが本質だということ思い出さない。㉑定義に物事をあてはめることはしないように。

- ㉒ほかの方法があるはずだ。自分の直感に従いなさい。

生徒

- ㉓それじゃ、それでも（さっきの）は音楽です。

シェイファー

- ㉔それでも！それじゃあ定義についてはどうするの？

- 生徒： ①私はそれが間違っているとは思いません。でも音楽として（成立する）ためにリズムとメロディの両方を備えていることが絶対に必要だとは思えないのです。
- シェイファー ②私たちのメロディとリズムの定義のためにちょっと条件をつけてみようかな、音楽であるために、常にメロディとリズムが必要ではないのではないかと、ということだよな？
- クラス： ③そうです。
- シェイファー ④よろしい。それでは別の質問をしよう。板に釘を打っている男の人がいる。彼は音楽をつくっていると言えるのだろうか。
考え込んでしまうクラス
P17 これは前のごみ箱の質問と同じようなものだけど、私のごみ箱を叩けば音楽を演奏しているといえるだろうか？
すっきり考え込んでしまう生徒たち
通りで車がブレーキを踏みこんだときの音は？音楽かい？
- 生徒： （明快に）違いますよ先生、だってブレーキの音は構成されていませんから。
- シェイファー ⑥よろしい。でもまだ釘を打っている大工さんとごみ箱が残っているね。
- 生徒： ⑦ごみ箱については、楽器として使うことが可能だということにしたらどうでしょう、特別な効果を期待して、という意味ですけど。
- シェイファー ⑧もしもだよ、私が「ごみ箱ポルカ」という曲を書くとしたら、そして作品の中に本物のごみ箱の音が必要だと考えたとしたら、ごみ箱を叩く音は音楽になるかな？
- 生徒： ⑨なると思います。でもあんまりおもしろい音楽ではなさそうですね。
- シェイファー ⑩それは重要な点じゃないさ。私たちはよい音楽かそうじゃないかを区別するためじゃなくて、音楽とは何かを発見したいだけさ。⑪じゃあもしごみの収集をする人がトラックにごみを放り込んだとしたら、その時それは音楽になるだろうか？
- 生徒： ⑫彼は音楽をつくらうという意図をもっていません。
- シェイファー ⑬それが私たちの探していた答えさ！続けて。
- 生徒： ⑭つまり、先生はごみ箱を楽器として使いたいと考えたし、ごみ収集の人はそうじゃなかった。違いはそれだけです。
- シェイファー ⑮その通り。機能している言葉は「意図」です。音が本当に聴かれるか、そうでないかが意図されているかどうかは大きな違いをつくり出します。⑯通りの音は聞かれることを意識していません。それは偶発的なものにすぎません。⑰もし車を製造する人たちが無音のブレーキを開発したとしたら、私はできると確信していますけれどね、ここで忘れてはならないのは警笛と同じようにブレーキ音は警告しているということなのです。⑱つまりブレーキ音は聞かれることが意図されているけれども、その目的は我々に危険を知らせているということが出来ます。⑲でも完全に意図されて作り出された音というには、かけ離れた目的ですね。大工さんについてはどうだろう。
- 生徒： ⑳でも先生、もし彼が口笛を吹きながら金槌を打っていたとしたらどうですか？
- シェイファー ㉑彼は音楽をつくっているとは言えないと思います。なぜかというと彼は意図していませんから。彼が出している音は付随的なものです。（彼にとって）大切なのは釘を打つということなのです。
- 別の生徒 ㉒でも先生、もし大工さんが口笛を吹きながら金槌を打っていたら？
- シェイファー ㉓答えてごらん。
- 生徒： ㉔私は彼が金槌を打つことは音楽でないとしても、口笛を吹くのは音楽だと思うのです。

- 生徒： ①私は彼が音楽をつくっているとは思いません。なぜなら彼は音楽をつくろうとは意図していないからです。②なぜなら彼は音楽をつくることを意図していないし、彼にとって重要なことは釘を打つことなのです。
- 他の生徒： ③でも先生、もし釘を打ちながら口笛を吹いたら？
- シェイファー ④君、答えてごらん。
- 生徒： ⑤私は金槌を叩くことが音楽でないとしても、口笛は音楽だと思います
- シェイファー ⑥これは少し哲学的になってきたね。P18⑦口笛を始めるためには大工さんは自分の金槌の音をきかなければならない。⑧そのことが彼に口笛を吹かせるわけだ、たとえそれが無意識であったにしてもね。⑨そしてそれは彼にとって音楽になるわけだ、彼のメロディーにリズムカルな伴奏を提供してね。そしてそれは私たちにとっても音楽の一部となる。
- 生徒： ⑩私が夕食を食べているとき食器の音は音楽ではないけれど、食後にいくつかのグラスに水を入れてそれを叩いたら、それは音楽になるということですね？
- シェイファー ⑪君はもう答えを出したね。⑫「意図」はすべての「定義」をつくる。⑬さて、私たちの音楽の定義に「意図」はどこにおいたらいいだろう。⑭私たちはすでに音楽は「組織された音」とであると決定したね。⑮それに音楽が「リズム」や「メロディ」といった特徴を含んでいるということも知っている。⑯だから音楽は「聴かれることを意図した」音であると締めくくろう。⑰だれか定義のまとめをやってみたい人はいないかな？
- 生徒： ⑱音楽とは…リズムやメロディなど…聴かれることを意図した音で構成…されたもの…。
- シェイファー ⑲（板書しながら）“リズム”と“メロディ”にはカッコをつけておこう。私たちはもうその両方がなくても存在する音楽があるということが考えられることを知っているし、またもし完全な定義を考え出したとしても、音というものについては、他の要素も考えなければならなくなるかもしれないからね。
- 生徒： ⑳「音楽は聴かれることを意図して（リズムやメロディなどで）構成された音」
- 生徒： ㉑最初の定義の「音楽とは音に関する芸術であり、文化的な活動である」というのについてはどうなんですか？
- シェイファー ㉒また別の問題が出てきたね。㉓それについて考えるとしたら私たちは「芸術とは何か」「文化とは何か」と最初から考えなければならない。㉔それにあとで3分でベルがなるから、私たちは次のきかいまでこれをお預けにしなければならないな。㉕でも結局のところ、いくつかの結論にたどりついたし、それは定義の基礎になったと思うよ。あとで改良を加えなければならないとしても、疑う余地なく的を射たものだ。

生徒： ①先生がこの話し合いをはじめたとき、私は辞書には音楽についてなんて書いてあるか調べてみたんです。辞書の定義は私たちのとは違っています。

シェイファー ②君はそれを書いてきたかい？ 私たちに教えてくれるかい？

生徒： ③はい、先生。こう書いてあります。「音楽—表現の芸術、またはメロディと和声の組み合わせによる音によってもたらされる情緒的な感動、心地よい音」

P19

シェイファー ④それは私たちが取り除いた定義のひとつに近いね。⑤（そして）それは君たちにもっと考えるための何かを与えている。⑥このことだけは覚えておいてほしいんだが、定義は物事の意味を明確にするということだ。⑦物事が変化すれば、定義も変わる。たぶん音楽はその辞書が書かれたところからすると変化したんだ。⑧たぶん君たちのうちの一人が辞書を編纂して、最新の定義を持ち込むかもしれないね。

生徒： ⑨それは期待しすぎだな。

シェイファー ⑩そうかな。でもこの小さな話し合いが何かを考えるきっかけになって、音楽室に来るたびにいつもここで私たちがやったこと、考えたことについては君たちが前進しているだろうなと考えていいかな？

⑪ベルが鳴る。

今のは音楽かな？ 授業は終わり。

描写的な音楽 p20~21

この対話の本当の目的は、生徒たちがもっている即興的な感性を開放する方法を発見することでした。「自然界の音を模倣する」という段階でその能力が達成されます。これは生徒たちをリラックスさせるためにも、あとに続く微妙な即興体験の準備としても、よい方法のように思えます。

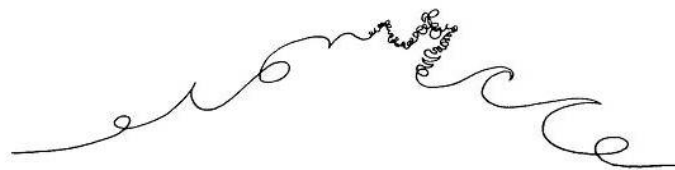
- シェイファー ①君たちも知っているように私は作曲家です。今日はなぜ音楽をつくるのかという質問をすることから始めようと思います。意見を聞かせてくれるかな？
- 生徒： ②何かを表現したいから作曲するんだと思います。
- シェイファー ③何を表現するの？
- 生徒： ④感じていることや考えていることなんか…。
- 生徒2： ⑤何かを描写したいのかもしれない。たとえば自然にあるいろいろなものを真似してみるとか。
- シェイファー ⑥オーケストラにあるたくさんの楽器を使って自然のいろいろなものを描写したいと考えているということかな。君は特定の楽器で真似られるものを何か思いつくかい？
- 生徒： ⑦ハープで滝を表せると思います。
- シェイファー ⑧ほんとだね！でも残念なことにここにはやってみせてくれるハープがないね。
- ⑨このクラスの中にある楽器で何かほかのものを考えられるかい？
- 生徒： ⑩スネアドラムでマシンガンの発砲音！
- シェイファー ⑪スネアドラム、ちょっとやってみてくれるかい？
- ⑫ドラムからすばやいマシンガンの発砲音がわき起こった。クラスの生徒は面白がっている。
- シェイファー ⑬ほかには？
- 生徒： ⑭トランペットで戦場に向かう軍隊。
- シェイファー ⑮トランペット、やってみてくれるかな？
- ⑯トランペット奏者の生徒はしり込みしている。このとき、後ろに立っていた音楽の先生が立ち上がって“Yeoman Bold — page5”と叫んだ。幸いなことにこの生徒はまだ嫌がっている。
- P21
- シェイファー ⑰私たちが探しているファンファーレにぴったりの効果をあげられる楽器が何かありますか？
- トランペット ⑱ホルンがいいと思います。
- ⑲ホルン奏者は恥ずかしがらなかった。次々に即席の短いファンファーレを演奏する。
- シェイファー ⑳いいね！他に何かあるかい？

P21

- 生徒： ①クラリネットは笑い声を真似できると思います。
②最初のクラリネット奏者が直ちに高音で、“wah-wah- wah-wah”と演奏したからクラスは大喜び。
- シェイファー ③クラリネットの人たち、クラスみんなが笑っているのをよく聴いて。④グループでそれを真似できると思うかい？
⑤彼らは挑戦します。甲高い摩擦音がわき起こります。クラスの生徒は大喜び。⑥クラリネット奏者たちは困惑しながら、説明を待ち受けています。
- ⑦（クラスに向かって）どうだい、笑い声の真似はうまくやれたと思うかい？
もう一度笑い声が起こりました。
- 生徒： ⑧私はひどかったと思います。めちゃくちゃだった。
⑨もう一度笑い声。
- シェイファー ⑩聴いて！（笑い声って）きちんとしているもの？笑うときってみんな一斉に笑うかい？
「ハ、ハ、ハ」みたいに？
- 生徒： ⑪うーん、ちがう。
- シェイファー ⑫私たちはクラリネットにその楽器を使って笑い声を真似するようにとだけ課題を与えたのだからね。彼らはうまくやったかい？
- 生徒： ⑬ええ、とても。
- シェイファー ⑭じゃあ今度は音楽をやっているかどうかというよりは、単に楽器を使って自然の中の違ったものを真似してみろということに挑戦します。⑮特定の楽器を使って真似られそうなものを思いつきますか？

P22

- 生徒： ⑯フルートで小鳥のさえずり。
- シェイファー ⑰フルーティスト？
⑱数人のフルート奏者が小鳥のさえずりを真似るよう頼まれます。トリル、装飾音など。
最初はひとりで、それからみんなで
- ⑲今のはやさしすぎたね。もう少し難しいことをお願いしていいかな。⑳小鳥が飛び立って空の上に舞い上がっていき、円を描きながら仲間の小鳥たちに呼びかける、それからゆっくりと地上に戻ってくる。飛行の動きはこんなふうに見えるかもしれないね。



P22～23

①フルート奏者たちはよく（言われたことを）理解した。何回か試してみて相当の効果をおさめた。小鳥の上昇、下降の動きはほとんどが多くの半音階を使った旋律で目的を達することができた。②ほとんどの即興は 20 秒かそれ以上続けられた。③それぞれの即興についてシェイファーは提言と批評を与えた。④批評の真剣さは演奏者たちの上達を促し、すぐに話し合いの必要性が認められ、より集中した努力へとつながっていく。⑤そしてクラス（全体）の雰囲気はだんだんと真剣な取り組みにしていく。

シェイファー

⑥（フルート奏者に）：とってもよかったよ。⑦もちろん君たちは（自分たちが）小鳥の真似をしながら作曲をしたということはわかっているよね。

⑧フルート奏者たちは面喰っている。

⑨君たちは作曲家というものはずっと昔に死んでしまった人たち、バッハとかベートーヴェンとかそんな人たちのことだと考えることに慣れてしまっているんだよ。これでそれは間違っているということがわかっただろうと思うよ。⑩音楽をつくるということは他のことと同様、私たちにもすぐできることなんだよ。⑪実際のところ、君たちはたしかにベートーヴェンのように（作曲するというのには）とはいかないかもしれないが、今君たちがやったことはかつて彼もやったこと、つまり思いつきに反応してそれを独自の音楽に変容させていくという活動なのさ。

P23

⑫他に何かやれそうなことがあるかい？

生徒：

⑬町を覆う霧、というのはどうですか？

シェイファー

⑭それはちょっと難しいかもしれないね。どんなふうによれると思うかい？

生徒：

⑮金管と木管がいいと思います。チューバ、トロンボーン、バリトン、サクソフォンそれからバスクラリネット。バンドはそれぞれの楽器が 2, 3 本からなる大編成となった。

シェイファー

⑯で、どう演奏する？

生徒：

⑰長く、やわらかな音で、とてもやさしく演奏してもらいたいと思います。

シェイファー

⑱よろしい、やってみよう！

チューバ

⑲先生、何の音でやるんですか？

シェイファー

⑳とりあえずは何でも君の好きな音でやっていいよ。できるだけ低く、長く、そしてやさしくね。㉑ただ霧の感じがほしいだけなんだ。

㉒彼らはやってみる。もやもやとした不吉な感じのする音。バスクラリネットはわざとなのかどうか判然としませんが、勝手な演奏をしている。

㉓何が邪魔していると思う？

生徒：

㉔バスクラリネットがだめにしています。

㉕全員が熱心に同意する。クラリネット奏者は当惑して、もう一度やらせてほしいと頼んだ。彼らは再度挑戦し、今度は彼も落ち着いて取り組むことができた。

シェイファー

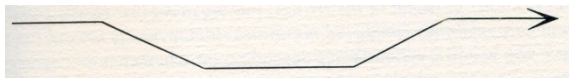
㉖ほかに何か意見がありますか？

生徒：

㉗たいい霧がかかる時は初めに雲が出てそれからだんだん町に降りてきて、それが移動してまた雲が来るんです。だから僕が考えるには最初に高い音で、それから低く、そしてまた高くと演奏することでこれをまねることができると思うんです。

シェイファー：

㉘わかった。私の指揮に合わせてください。ゆっくり向こうに向けて上げたり下げたりします。



指揮棒が動き、より質感のある音を得られた。

p. p. 23-24

バリトンサクソ

先生、僕は霧笛の音を加えられると思うんですけど。とてもうまくマネできるんです。

シェイファー

よし、やってみよう。

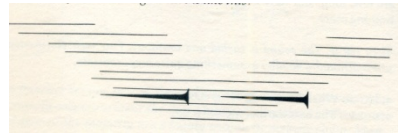
バリトンサクソは低くやわらかな音で演奏を始め、それからだんだん大きくして
いって、最後にスフォルツァンドで止めた。その効果は本物そっくりだった。



シェイファー

これを加えるかい？他の人はできるだけ小さく演奏して、霧の外で孤独な霧笛のク
レッシェンドが聞こえるだろう。

図示するとこんな感じだ。



シェイファー

本当に面白い音だね。とにかく本当に霧の濃さや神秘性を呼び起こすよ。ほかに何
かやってみるかい？

生徒

森というのはどうですか？

シェイファー

どんなふうに？

生徒

よくわからないけど、木々の間を風が通り抜けていく時には音がするでしょう？

シェイファー

君が描写したいのは、風それとも森？

生徒

両方とも。

シェイファー

風を描写する方法を考えつくかな？

たくさんの提案：弦楽器のグリッサンド、ピアノとハープのアルペジオのとどろき、悲しげな木
管のつぶやきなど。あきらかに春のそよ風であれ、荒れ狂嵐であれたくさんの風の様
子を作り出すことができそうです。しかし、森は？私は森について関心をもってい
るのです。 提案なし。問題をもっとはっきりさせましょう。

板書しながら。

P25



さあ。これを音楽的に描写できるかな。

生徒

- ① 先生が木の高さをオーケストラで示すことができると思います。オーケストラの低い音域から始めてだんだん高くして行って、また降りてくるというように。



シェイファー

- ②こんなふうに？私にはこれが木であるとわかるだろうか、山かもしれないし、波かもしれないし、アリ塚かもしれない！

生徒：

- ③わからないと思う。

シェイファー

- ④袋小路にきたね。⑤確かに聴く人に多少の想像力があれば、音楽で描写してある程度まで正確に提供できるものもあるけれど、そうはいかないものもあるんだよ。

- ⑥残された時間でそれを分類することができるかもしれない。

- ⑦最初のグループには自然現象を含めよう、それ自身が独自の音をもっているもの。

（たとえば）滝とか銃の発砲音とか、かっこうの鳴き声だ。⑧二番目のグループはそれ自身は明白な音をもっていないけれど、特定の心の動きや印象を作り出すことのできる自然の事象を含むものだ。⑨これは小鳥の飛行でやったことだね。

P26⑩ここで私たちは見事に小鳥が輪を描くように飛ぶ様子や滑走を表すことができたね。⑪霧の表現については、心の動きではないけれど、暗い、濃い霧がたちこめている様子を、ある特定の楽器で音楽的に作り出すことができた。

⑫しかし、それではじっとしている（動かない）ものや生命のないものに対してはどうだろう。⑬彼らは動きも（独特の）感じもないし、私たちが真似できる音も出さない。

⑭たとえば石とか電柱、それから樹木なんかだね。⑮ここで私たちは行き詰ってしまったね。⑯私たちは木の葉を通り抜ける風や、うっそうとした森についてはいくつかのアイデアを出して、オーケストラでその印象を描写したけれど木そのものを正確に描き出すことはできなかった。

⑰これまでもそうだったし、これからもそうだろうと思う。⑱時々君たちはそれはもうできているんじゃないかと思うことがあるかもしれないが、それは以前読んだプログラムノートの記述か、聞いたことのある音楽についての思い込みだと思うよ。

⑲いつか君たちのうちのだれかが、この部類をそれぞれ分類してより適切な編成を作り出すことができるようになるだろう。⑳ここにそれを始めるのにちょうどいい小さなリストがある。㉑ひとつひとつよく見て、正しく分類してごらん。

嵐の海

夕焼け

やさしいそよ風

エンパイアーステートビル

ギャロップする馬

じっとしている馬

木の葉

木々をゆらす風

吠えている犬

怒っている先生

遊んでいる子供

国旗

ロッキー山脈

鋳物工場

音を立てる小川

コップの水

宿題の予想？

煙

P27

音の感じ

シェイファー

①昨日は自分たちの楽器を使って自然現象を真似たり連想させたりすることについて話し合ったね。②今日は作曲家が聴き手に情緒的に異なる反応を引き起こすために使う素材にまで調査を進めていこうと思います。

③たとえば、もし私が“怒り”といったらどんな種類の音を思いうかべるかい？

生徒：

④何か大きな音。

別の生徒：

⑤何かしら大きくて、つんざくような音。

シェイファー

⑥どうしてそんな音だと思うの？

生徒：

⑦だって怒っている人は大きな声で叫ぶから。

シェイファー

⑧それは確かにひとつの理由だね。⑨大きくてつんざくような高い音に対して、正反対の音は柔らかくて、低い音だね。⑩そんな音はどんな感じを与えるかな？

生徒：

⑪物悲しさ。

別の生徒：

⑫愛？

シェイファー

⑬あんまり自身がなさそうだね。⑭どうして「愛」っていったの？

生徒：

⑮だって恋している人はやさしく、慰めるように話すから。

⑯少女たちからクスクス笑い。

シェイファー

⑰そう、君は大事なポイントをついていると思うよ。君たちのうち誰一人柔らかで低い音の「怒り」や、高い大きな音の「愛」を連想した人はいないだろう。全員が完全に一致した意見をもつことができないとしても、ある特定の感情がわき起こる明らかな力があるんだ。

⑱さて、私が言ったように「高音」と「低音」、「柔らかな」と「大声」とは正反対なんだ。

⑲何か正反対の価値をもつ音楽用語を思いつくかな？

生徒：

⑳「長い」と「短い」

別の生徒：

㉑「速い」と「遅い」

シェイファー

㉒そうだね、これは今日の課題に十分だね。

㉓彼は黒板にこれらの言葉を書きだした。

P28

高	低
大	小
長	短
速	遅

シェイファー

- ①さて、作曲家は特定の性格をもつ作品をつくるために、これらの基本的に有効な要素（価値）を使います。②ここで皆さんに本当にわかってほしいことは、これらの要素（価値）は聞き手に大変異なった方法で作用する力をもつということなのです。③たとえば（みんな）楽器をとって、私の合図で何でも好きな音で高い大きな音を出してみてください。これまでに話し合ってきたような音がするでしょう。④高音域の大きな音が出され、2, 3人の女の子を驚かせる。⑤じゃあ今度は私の合図で、低音域で小さな音を出してみてください。⑥柔らかな、小さな音が出される。⑦もう二つの音がどんな感じで違う音なのか言わなくてもいいね、ひとつは怒っていて好戦的だし、もう片方は慰め、たぶん悲しみだ。⑧これらの材料を使って何か意味のある、感動的なものを作り出すのが作曲家の仕事です。⑨時として作曲家は、画家が「limited palette」と呼ぶ方法と同様に、これらの正当な要素（価値）を制限することを選択する場合があります。⑩それは画家がわざとある色だけを選択して描くということです。⑪きっと君たちはピカソの「青の時代」とか「赤の時代」とかの絵画を見たことがあるでしょう。これらはそのような尺度で描かれたものです。⑫同様に、もし作曲家が特定の雰囲気をもった曲をつくることを望むなら、その要素（価値）を制限するかもしれない、たとえば、速くなくてゆっくり、大きくなくて小さく、というようにね。⑬これをわかりやすくするために、二つの「limited palette?」の方法でつくられた例を曲の一部分を使って示してみたいと思います。⑭最初の曲はドビュッシーの「牧神の午後」です。⑮曲の最初の2, 3分間がレコードで演奏されました。⑯ここには実にはっきりした雰囲気がつくられていますね。⑰さて、二番目の曲はある種の音楽の要素（価値）を制限することによって、違った雰囲気を作り出しています。⑱タイトルは「禿山の一夜」、ロシアの作曲家ムソルグスキーの作品です。⑲さあ、だれか私たちの話し合いの結果を使って、この二つの作品の違いを説明してくれる人はいませんか？

P29

生徒：

⑲二つの作品はまったく異なっています。⑲最初の曲は柔らかな低音域、長くてゆっくりした音楽の要素が使われているし、後の曲には高音域、大きくて短く、速いという要素（価値）を使っていました。

シェイファー

⑲そうですね。この2曲はまったくよい対照を示しているね。⑲たぶん君たちは作曲家が想像力豊かにそれを使うと、聞き手にこの価値が十分な力を発揮するということが分かったと思います。⑲さて、私たちはこの二つの作品で音楽の要素を明確に分類することができました。こんなふうだね（黒板に書いて）。

ドビュッシー

柔らかい

低い

長い

ゆっくり

ムソルグスキー

大きい

高い

短い

速い

シェイファー

①これらは「抒情的な」作品と呼べるかもしれない、なぜなら彼らはある雰囲気（気分？）をつくりだし、持続させるために関連した雰囲気を使う傾向があるからです。②もし、作曲家がドラマチックな作品をつくりたいと思ったら、突然の変化と驚きで対照的な要素を使うことに、もっとこだわるかもしれません。③誰かこのタイプの力強い作品をつくった作曲家を思いつく人、いるかな？

生徒：

④ベートーヴェンはいつでも「驚き」に満ち満ちています。

シェイファー

⑤たぶんベートーヴェンはここで名前を挙げるのにもっともよい例だと思います。⑥彼の作品においては、常に新しい出来事の展開に驚かされるのです。⑦小さなパッセージはオーケストラ全体の大きな炸裂で突然中断されるし、大きなスフォルツァンドのパッセージはピアノシモになる。⑧また多くの作品の中で、とてもゆっくりした部分から、突然に速くて怒り狂うような部分へと進んでいくのです。⑨このようにベートーヴェンの音楽を検討したら、最終的に異なる（性質の）ものを私たちの図の中にもちこんで並べることになるかもしれませんね。こんなふうに。

Debussy	B	Moussorgsky
	E	
	E	
	T	
SOFT	H	LOUD
LONG	O	SHORT
LOW	V	HIGH
SLOW	E	FAST
	N	

P30

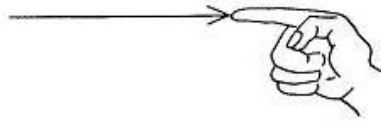
⑩これがベートーヴェンを力強い作曲家にしているのです。⑪もちろん、私は君たちに基本的な事柄をわかりやすく伝えるために、膨大な内容を非常に単純化して話したのですよ。

⑫今度は音のもっている異なった特質の効果をわかりやすくするために、ちょっとした実験をしてみたいと思います。⑬私は君たちに自分の楽器を使ってもらって、今まで話し合ってきた音を明らかにしようと思うのです。そして、それがどれくらい違って感じられるか試してみましょう。⑭何か特別な音や、コードをつくるのではなく、むしろ音の印象というようなものをつくってみるのです。⑮たとえばここに**ある**私のコーデロイの上着とナイロンのシャツがあるでしょう。⑯私は君たちに音の感じもこれと同じようなものだと考えてほしいのです。⑰だから何の音を出すのかということは心配しないでくださいね。私が君たちに規準の音の高さを示しますから—高くても、低くても、真ん中くらいでも—私の手の高さが君たちへのサインです。⑱これから君たちに与えるたくさんのサインは、それぞれ音の印象を表しています。

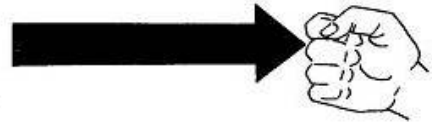
⑲シェイファーは使おうと思っているたくさんのサインを説明し、試してみます。

⑳以下のとおりです。

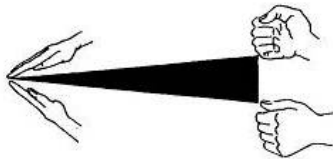
①小さな音：指で示す
水平の動き



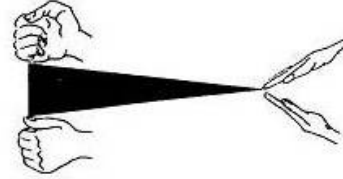
②大きな音：げんこつで示す
水平の動き



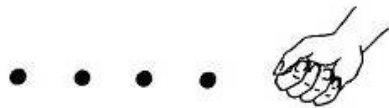
③クレッシェンド：腕で示す
水平の動きで、指先から始まり最高点
ではげんこつになる。



④デクレッシェンド：腕で示す
水平の動きで、げんこつから始まり
最高点では指先になる。



⑤短く目立たせる音：
げんこつで突くことで望むリズムを
示す。



⑥柔らかく目立たせる音：
指先ではじいて望むリズムを
示す。

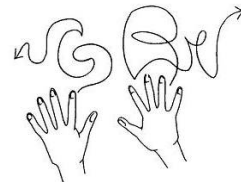


P31

⑦トリル：指先の動きで
望まれたテンポをゆっくりから速く
と揺らしながら示す。



⑧全体で：(できるだけ速く大きく演奏する)
両手を身体の前で激しく動かす。



⑨シェイファーはこれらのサインを使って実演し、生徒たちはそれぞれの楽器でこれに応えます。

⑩短くて柔らかな音、長くて大きな音など最大限の対照を得るために、サインを使った進行の試みがゆっくり時間をかけてつくりあげられていきます。

シェイファー

①今度は私たちが作り出してきた響きの進行に対位法を加えていきましょう。②誰か出てきて私を手伝ってほしいのですが、そうすればこの実験に別の観点を加えることができますからね。

③副指揮者が選ばれてオーケストラが分けられました。④オーケストラの半分ずつが一人の指揮者の指示に従います。⑤指揮者たちはもうひとりが見えるように立って、もう片方のグループと違った音の印象を示唆しながらつくりだしていくのですが、(それは)それぞれの印象と正反対のものをつくりだそうとする指揮者によって進められていきます。

⑥結局 3 人の生徒が出てきて (すべて生徒です)、オーケストラも 3 つに分けられました。

⑦指揮者は他のグループが見えるように半円のなかに立ちました。⑧シェイファーは後ろに移動して、聴いています。

P32

⑨もう少し、そのままで。⑩次に進む前に何か尋ねさせてくれないか? 自分たちの音に何か批評することはないかい?

生徒:

⑪先生、音が複雑すぎて汚いです。みんなが何か違うことをしている。

シェイファー

⑫ちょっと濁りすぎだね。⑬指揮者が他のグループに注意を払わないのが理由だよ。

⑭君たちはみんなそれぞれ、小さなグループの音だけを動かそうとしている。⑮君たちは他の指揮者には全然注意を払わない。⑯音の対照をつくるという最初の仕事を忘れてしまっている。このままずっと続けたら、ものすごく大きな音の塊ができるだけじゃないかな。⑰そこにはどんなドラマも生まれませんよ。⑱こんな方法を試してみよう。窓のない堅固でおもしろみのない壁があります。⑲窓を使って、区切りをつくることで建物の中にいる人に明りをもたらしましょう。

⑳私たちは休符—沈黙—を使って音楽に窓をつけるのです。㉑ひとつのパートが休んでいる時に、他のパートが何をしているのかははっきり知ることができるのです。

㉒もう一度やってみましょう。それから指揮者はお互いに何をしているのか、見て、聴くことをお願いしておきますよ。㉓(他のグループの音の)上に重ねていくばかりではいけませんよ。

㉔自分が音をつくる時は、あなたの友達がつくり出している音のことを考えて、そして加えてください。㉕でもとにかく、(第一に)聴いて、聴いて、聴いてください!

㉖実験は続く。長く続けば続くほど、生まれてくる音の印象は興味深く、思いがたくさん詰まったものになります。㉗そして小さなコーラスのグループが加えられて、「S」、「M」、「AH」という 3 つの単語が与えられました。㉘これら 3 つの音は完全なコントラストをつくり出していきます。無音の「S」、口を閉じて発声する「M」、そして口を開いて発声される「AH」です。㉙強弱と高さによる合図でピッチの相対的な指示も加えられ、4 つになったグループ(先の 3 つと合唱のグループ)、4 人の指揮者のもとで生き生きと授業の終わりのベルが鳴るまで熱心にこの実験は続けられました。

①ここで一緒に取り組んでくれるのは通常の5重奏編成の奏者です。②このグループとの親交は（この活動の目的を）楽しく、より魅力的なものにします。③ここで取り上げた言葉による会話と音楽における即興は、絶対に決定的なものではありません。そのことは後に続く対話の中に現れており、演奏者の瞬時の応答がたくさんの意味合いを証明しています。④この後に行われる実験が潜在的な即興の才能を引き出すものであるのか、単なる耳の訓練にすぎないのかどうかという本当の意味を決定するのはとても難しい（と思われる。）⑤たぶん両方の働きをもっているのでしょう。⑥ほとんどの生徒がバンドやオーケストラで20本のクラリネットや16本のフルートでベートーヴェン・ブラウンやヘンデル・ジャクソンのユニゾンを一斉に吹き鳴らしながらも、一度として他の人の音を聞いたことがないという事実ははっきりしました。⑦このようなことから、生徒たちの聴く力を育てるといことは彼らの音楽教育において重要な突破口となるように思えるのです。

シェイファー

⑧今日は君たちと即興演奏の練習をしてみたいと思います。⑨みんなも知っているように音楽はすべて楽譜に書かれているわけではありません。たとえばジャズはほとんどそうですね。⑩また過去においては演奏者が作品の一部を自分自身で即興する（つまり作曲）ことを期待されていた時代がありました。⑪これが協奏曲における「カデンツァ」で、演奏者はここで演奏の卓越した技術と同時に自分の才能を示すこともできたのです。⑫また多くの現代の作曲家は演奏家が即興する、あるいは一部を作曲することを求めるようになってきています。⑬最近では、演奏家と作曲家との間に生じる境界線をなくそうとする本気の試みもなされるようになってきています。

⑭さて、というような前置きをして私は君たちに即興をしていきながら作り出す音楽で解決しようとしている課題をあげましょう。⑮問題はこうです。「君たちは声のかわりに自分が今手にしている楽器を使って、他の人と話をする。⑯自分の伝えたいこと、考えていること、感情や思いつきは楽器を使わなければならない。」というものです。⑰だれが最初に始めるかな？

P34

⑱不安そうな笑い声。⑲最終的に一人ずつ小さなソロをやるように促されました。⑳「何かやさしいことを言ってみて」、「怒ったように話してみて」というように適切な後押しがされました。㉑最初はぶっきらぼうで、照れくさそうで不格好だったものだったが2, 3分もするうちに彼らは性格をうまくつかんで、膨らませていったのです。

シェイファー

①さて、君たちはみんな独り言がずいぶんうまくなったので、対話の段階に進めるね。②今度はお互いにすぐに続けてほしいんだ。③私が君を指したら、君はすぐに始めて最初の方は音を小さくして行って消えていく。④けれども君たちはそれぞれ前の人の考えを受け止めて、それを発展させていくということから始めます。⑤ちょうど会話で一人が意見を表明し、それが終わらないうちに「そうですね」とか「その意見に賛成です」と言って自分の意見を言うのと同じです。⑥やってみましょうか。私が君を指したら、いつでも好きなように始めてみてください。
⑦5, 6回これをやってみたが、シェイファーは一人ずつの演奏者が他の人の考えを受け止める、という方法に満足できなかった。⑧つながりは勝手気ままで、前の演奏者の思いを全く受け止めていないのだ。

⑨ちがう！そんなふうにはやってほしいんじゃないんだ。君たちは全然お互いに聴きあっていないよ。パッセージだけをつなげてみよう。⑩最初に一人が短い動機を演奏する、そしたら次の人はちょっと休んで、前の人の動機を真似てみる。正確に音自体をとというのではなく、基本的なパッセージの性格を残しておくんだ。⑪いいね、フルート、オーボエ、クラリネット、ホルンそれからバスーン。この順番だ。いくよ？

⑫演奏者たちはお互いに聴きあえず、まだはっきりと理解できていない。⑬一人ずつの楽器で5, 6音からなる音型が演奏されたが、次（の段階で）ははっきりしない3音のつながりになった。⑭もっとシンプルにする必要があるようだ。

シェイファー

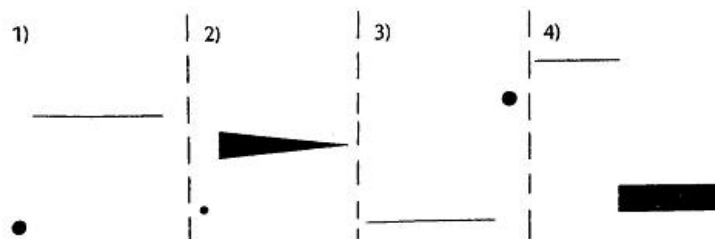
⑮ふたつの音だけを使おう。⑯ふたつの音の関係から性格の全てが生じるんだ。⑰大きいか小さいか、長いか短いかというように、ひとつがもうひとつに対してははっきりと対立している、ということなのです。⑱前にやった「対照的な音の感じ」の実験を思い出して。⑲一人ずつ自分の楽器で対照的な音を出して聴かせてくれるかい？

⑳以下の通り。

たくさんの想像力が駆使されました。If size = 強弱, 高さ = 音高と長さ = 演奏時間？：

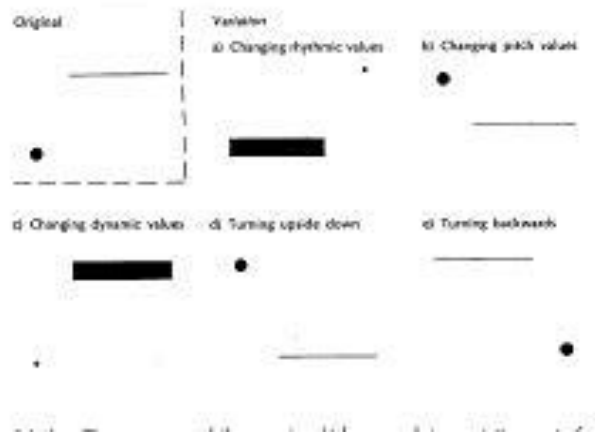
演奏を図示すると次のようになります。

P35



- Schafer: ①よろしい。今度はふたつの音のグループを一人が演奏して、もう一人はそれを引き継いですぐに真似てみよう、同じパターンである必要はないけれど、音の性格の大要は同じだ。
- ②これはうまく実行されました。③演奏者はずいにお互いの（音？演奏？）を聴き始めたのです。④この練習は3つの音、4つの音でも繰返されました。
- Schafer: ⑤ついに私たちは「混沌」に別れをつけられそうだね。⑥今度は君たちにちょっとした模倣のヴァリエーションを教えよう。⑦それはちょうど誰かが会話の中で自分の意見を言うと、他の人がそれに修飾を加えて繰返すようなことです。⑧作曲家がどんなふうに2音の動機を展開させるかを君たちが演奏したことのある例で説明してくれるかい？
- Flautist: ⑨リズムを変化させます。
- Schafer: ⑩たとえば？
- Flautist: ⑪2音のリズムが「長い」と「短い」だったら、「短い」と「長い」に変化させることができます。⑫その例が演奏されました。
- Schafer: ⑬よろしい。ほかの方法は？
- Oboist: ⑭リズムはそのままで音を変化させることができます。
- Bassoonist: ⑮もし音の大小があるなら、それを反対にすることができます。
- Flautist: ⑯上下にひっくり返したり、前後を逆にすることもできます。
- Schafer: ⑰そうだね。それは全部可能だね。⑱黒板に書いてみてもいいかい？

P36



- Schafer: ⑲たったふたつの音のつながりにおいてさえ、君たちがやってみたようにいくつかの変奏の方法があるのです。⑳黒板の図をみて何か変奏の方法についての概略に気がつきませんか？
- ㉑沈黙

Schafer: ①ではこう言えればいいかな、私が書くことを妨げているのは何か、つまり黒板上のどの二つの音が最初のペアの変奏だと言えるのかということだ。

Bassoonist ②どれも共通するものがないことでしょうか。

Schafer: ③その通り。これらの変奏は君たちが気づいたようにひとつの要素だけが変わっているんだ。一回目はリズム、次は高さ、それから強弱というふうだね。でも他の要素は同じだ。

④君たちはオリジナルの要素と同じものを残すか、でなければ変奏をやめるかだ。

⑤これでやってみよう。⑥じゃあ2音の動機にもどって、君たちはそれで変奏をしていく。⑦こんどはホルンから始めようか。

⑧最初のうち、演奏はためらいがちだった。演奏者は何が許されていて、何が許されていないのか不安だった。⑨しかし間もなく変奏の技術が明らかになってきて、彼らは自然に反応し始めた。

Schafer: ⑩君たちは他の人がつくり出す音に素早く反応することを学ぶために、時々これをやることを続けるべきだよ。

P37

⑪じゃあ、最初のソロの順番？ 繰返し？ に戻ろう。⑫最初の人演奏を始めて別の人が始める、最初の方は演奏をやめて引き上げる。⑬でもいつの場合も新しい演奏者は前の方の小さな動機でもフレーズでも拾い上げてコメントする（繰返しでも、変奏でも）こと、前の方が行くまえにね。

⑭この練習は今回の演奏に大変よい効果をもたらした。

Schafer: ⑮それでは、君たちがやっていることと会話の間の比較に戻りましょう。⑯君たちはごく普通に対話をするよね、ある人が話してそのあとで他の人が話すという具合にだ。そして自分の意見を何か言う前に、前の方が言ったことを認めるよね。⑰それは会話を続けるうえではよい方法だと思うけれど、ちょっと非現実的なような気もする。⑱本当のところ、我々は他の人たちに対してそんなに我慢強いというわけじゃない。⑲いつも誰かの意見を認めているわけでもないんだ。⑳それに会話の中でも感情的な論点においては本当に熱をあげて興奮するよね。㉑どうだろう、それを私たちがここでやっていることに応用できないだろうか。㉒私の合図なしで会話をしてみよう。㉓入りたい気分になったら、入ってくるだけだ。㉔友達の意見に賛成のときもあるだろうし、とても賛成できない時もあるだろう。㉕彼らは（会話を）始めたが間もなくどの楽器の音も聞き分けることができないほどに混乱してしまった。

シェイファー

① ちょっと待って！ 会話のとき、みんなが一度にしゃべると、誰ひとりとして話されていることが何か理解できないというのは本当だね。②それが君たちの演奏を聴いた私の印象だ。③五人の違った言葉を話す人たちができる限りの速さで、誰も人の言っていることは全く気にせず話しているようなものだ。④その昔、賢人は「話上手は聴き上手」と言ったものさ。⑤人の言うことにいちいち口出しをせず、本当に適切な瞬間に正しいことを言う人こそが皆からその機知と知性を尊敬されるのです。⑥愚かな人だけ始終話しているのです。⑦さあ、お互いに聴きあいながらもう一度やってみよう。

⑧出来上がった音は、言葉数が減ってわかりやすくなったものの、まだ意味をなさないものです。

シェイファー

⑨だいぶよくなってきたね。⑩だいぶよくなってきているよ。でももう一度音楽の中での静寂の重要性を思い出してほしいんだ。音楽の中の静寂は、建築物の窓のようなものです。窓は光を取り込むよね。大切なコメントになるまで待つんだ、それからテクスチャーの中に何かを加えるんだよ。でなければ静寂のままに他の人が言っていることを聞くんだ。

再度改善して。

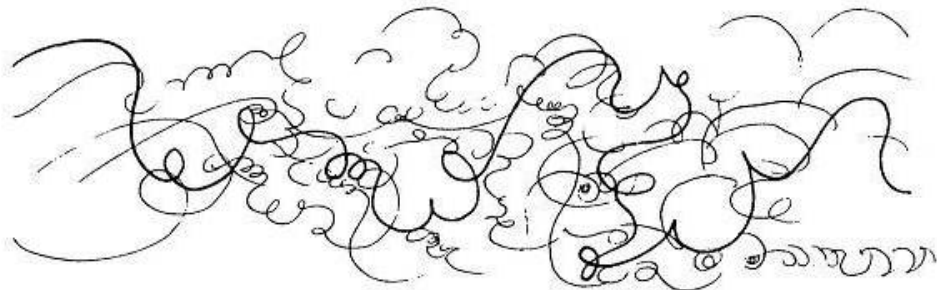
シェイファー

⑪もう一度、人の会話をみてみよう。⑫時々会話を支配する人がいるよね、他の人はただ同意のコーラスをしているみたいに。⑬たとえば魅惑的な政治的な演説者のことを考えてごらん。彼の聴衆はある種の好意的な雰囲気をもって単純に彼の誘導に従っていくのです。⑭そんなようなことを音楽でやってみよう。⑮君たちのうちのひとりが、クラリネットがいいかな、壇上でソロの演説者になる。⑯残りのみんなは静かにそっと伴奏するんだ。

⑰生徒たちはやってみる。残りの生徒たちは出来る限りそっと静かに演奏しているにもかかわらず、クラリネットのソロを損なってしまう。

⑱たぶん君たち自身が、私を感じたように感じたと思うけれど、クラリネットをおおってしまったね。⑲こんなふうにならないためにはどうしたらいいだろうね。

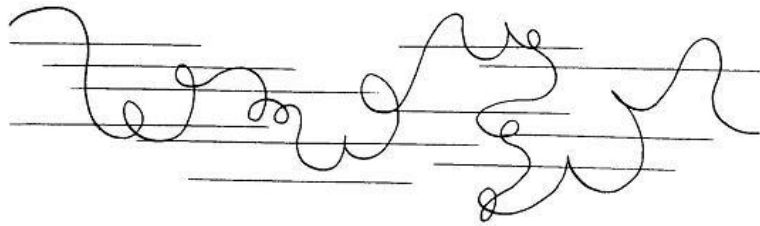
⑳ちょっと思いついたことを言ってみよう？㉑もし私がさっきの作品を書いたとしたらこんな感じになるかな、太い線がクラリネット、薄い線が伴奏の楽器だ。



シェイファー

①テクスチュアが「ごちゃまぜ」になっているのがわかりますか？ ②けれども私がクラリネットにとても活動的な線を、そして他の楽器に軽くてまっすぐな線を描けば「ごちゃまぜ」はいっぺんにきえてしまうでしょう。これを見てください。

P31 図



(P32) ④音楽における最高の明快さというのはこのような異なる種類の対比によって達成されるものです。⑤もう一度ソロをやってみましょう、今度は残りの人は柔らかく低い音でね。⑥一緒に和音をつくりましょう、それはソロのために和声的な下地のような役にたつでしょう。⑦彼らは再び挑戦し、すぐにその変化が全員に納得された。

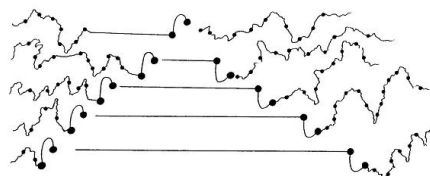
シェイファー

⑧さあ、これまで学んできた異なる種類のものを取り入れて独自ののびのびした即興に挑戦しよう。⑨もう合図はしないよ。⑩君たちにはまず自分の方法で自分自身の音楽を感じてほしいんだ。それから好きなように反応してほしいと思う。⑪君たちは他の人たちと同調してもいいしそうでなくてもいい、ただ私が君たちに覚えておいてほしいのは「同序する」ということは会話を長く続けていくうえでは、より望ましいということだ。⑫もうひとつ、君たちに会話における沈黙の重要性を思い出してほしいんだ。⑬他の人が言っていることに、何か建設的な意見をもっているときだけコメントしなさい。⑭怠けてはいけないよ。

⑮彼らは始めた。⑯しばらくするとシェイファーは音楽を止めて意見を述べ、彼らはまた挑戦する。⑰彼らはまた中断して、所見が述べられ、続けられる。⑱そうしながら進行していく。⑲だんだんと彼らの演奏は結合力のある明快なものになっていき、演奏者たちは打ち解けた調和のようなものが分かり始めた。⑳とりわけ？彼らは one another を聴き始めている。㉑この即興はフルートの小さな下降音型がすぐにオーボエに聴きとられ、それがクラリネットとホルンに受け継がれていったところで水際立った好例となったのだ。

㉒ファゴット奏者は動機をさかさまにして、ごく自然に voices の伴奏にまわって再びフルートに手渡したのだ？ ㉓1時間前にはこんな居心地のよい対位旋律はできなかっただろう。

P31 図



鬼のお面

- ①若い人たちの創造的な能力（の育成）に関わることは、どの作曲家にとっても義務です。②けれども子供たちの能力は瞬時に見つけなければなりません。③音楽教育の一分野である創造的な音楽学習はだんだんと中傷され、うんざりされて滅びかけています。④高校の school band の指導者が編曲によるバッハやベートーヴェンの作品を取りあげるとしたら、音楽のもっている力は弱まりこそすれ、強くなることはありません。生徒達はその作品を理解することができるようになるまで、バッハとベートーヴェンはそっとしておいたほうがいいのです。
- 小さな子供たちの場合には、彼らに理解できる身近な作品を与えるのがより無難でしょう。
- ⑤どの公立学校の教室にも即興はあるのですが、12、3歳にもなるとこの能力の表現は難しくなってきます。というもわずか4音の演奏をしようとしても、周囲の笑いを気にしてしまうからです。これは排他的な教師が戦場で“Yeoman Bold, page5!”と叫んでいるかのように生徒に与えられることによるのかもしれない。

最後の話し合いとして登場するのは、公立学校（たぶん6歳のクラスだと思うのですが）で行われたものです。生徒たちはオルフメソッドで教育を受けており、このメソッドは少なくとも創造的な音楽活動として活用されるはずなのですが、悲しいことに無力な教師たちのせいで全く機能していません。しかしこのクラスの先生は例外でした。さもなくば私たちが成し遂げた活動はできなかったと思います。寒い冬の日、休み時間もなく、「私たちの」小さな作品—恐ろしい鬼のお面—は完璧に創り上げられたのです。

教師：

- ⑨ご覧のようにここでは子どもたちが自分たちで音楽を作ることができるようにオルフシステムによって、最初は反復、それから Rond 形式へと指導しています。（クラスへ）みなさん、シェイファーさんは作曲家で、演奏家のためやそれからたくさんの方のために音楽を作っておられます。今日はシェイファーさんをお願いしてみなさんにお話をさせていただきます。もしかしたらみんなに曲を作ってくださいませんかよ。

シェイファー

- ⑩ありがとうございます。_____先生。私はずっと気をつけてみんなの様子を見ていたけど、君たちも作曲家だね、だって自分の演奏するための音楽を自分でつくっていたからね。どうだろう、一緒につくったらもっと楽しいんじゃないかな。どうだい？
- ⑪これはクラスを喜ばせた。
- ⑫シェイファーは教室の壁に飾られた子どもたちの手になる絵や切り抜き、お面などに注目しました。
- ⑬恐ろしげな風貌のマスクを見つけた時、ブレヒトの“Mask of the Evil demon springs to mind.”の詩が心に浮かびました。
- ⑭これで何かできるかもしれない…。



- シェイファー ①私たちの詩にお面への同情を表すフレーズを加えよう。②みんなで「可哀そうなお面さん、あなたの脅かすような威張った顔を見たときに、私はずっとそんな顔をしていなければならないことがどんなに難しいことかわかったの」と言いましょう。③だれかこれを黒板に書いてくれる人いないかな？それを書いてもらっている間にだれか朗読してくれる人はいませんか。④たくさんの生徒が暗唱し、シェイファーは他の生徒に批評をさせます。⑤ついに詩に申し分のない表現と感傷的な特性を与えることのできる一人の少女が見つかりました。⑥生徒たちは彼女が一人で朗読することを決定しました。
- シェイファー ⑦たぶん残りの人たちは朗読を自分の楽器で伴奏することができるね。⑧これはどんなふうにできるだろうね。⑨雰囲気を出してくださいね。⑩あなたたちはお面に同情し、かわいそうだと思っているんだよ。⑪どんな楽器でこの気持ちを表現できるだろうか。
- ⑫シンバルかな？
- クラス： ⑬ちがう、シンバルじゃない！
- 男の子： ⑭きっとグロックンシュピールと鉄琴がいいと思うな。
- シェイファー ⑮どんなふうに？
- 男の子： ⑯ゆっくりで柔らかな低い音で。
- シェイファー ⑰よし、朗読と一緒にやってみよう。
- ⑱鉄琴とグロックンシュピール奏者はほとんど撫でるように自分の楽器の鍵盤を叩いていたように見える。
- シェイファー ⑲とってもよくできたね。⑳何か他に加える楽器がありますか？たとえばウッドブロックとか？
- クラス： ㉑ウッドブロックはだめ。うるさすぎる。
- 男の子： ㉒ドラムを叩く代わりに、手でなでるようにすればドラムを使えるかもしれない。
- シェイファー ㉓それは面白い考えだね。どんな音になるか聴いてみよう。
- ㉔ドラムのシャッフルが朗読と鉄琴とグロックンシュピールに加えられました。
- シェイファー ㉕他に何かないかい？
- 女の子： ㉖何か歌えないのですか？
- シェイファー ㉗何が歌える？
- 女の子： ㉘たぶん低いうなり声かささやき声のようなので「Oh pity」が歌えるんじゃないかしら。
- シェイファー ㉙やってみよう。みんなで「Oh pity」のところを呻くような声でね。㉚とても柔らかかに何度も何度も繰り返されました。
- ㉛歌声の柔らかな波が朗読と演奏に加えられました。
- 女の子： ㉜先生、私は歌がいいとは思いません。
- シェイファー ㉝何がよくないの？
- 女の子： ㉞ Oh pity が好きじゃないの。㉟うなり声には足りないし、歌うのにはきれいじゃないんですもの。

シェイファー

①もっとよくなる方法を何か考えられるかい？

②数人の子どもたちからたくさんの提案がありました。③ようやくその音がよりうめき声に近いということから、「なんて不幸せ」と歌うことになりました。④この提案は実に理に適ったものなのです。⑤長く開いた母音の sorrow は短い pity の i よりうめき声に近いのですから。⑥クラスは「なんて不幸せ」を試してみて、これに満足しました。⑦朗読者も適切に自分の詩の 1 行を訂正します。

シェイファー

⑧よし、じゃあみんなで作ってみて、どんなふうに来上がったか見てみよう。

⑨彼らは全員で数回それを繰り返します。⑩そのたびに数か所の小さな変化や付け加えがありました。

男の子

⑪先生、誰か鬼の真似はできないかな。⑫その人はお面をつけて、僕たちが「鬼」っていうとき飛び上がるんだ。

シェイファー

⑬それはいい考えだ。鬼になりたいのは誰だ？

⑭この小さなエピソードが加えられました。そして後には教卓（象徴的な意味）の後ろからさっと立ち上がるように発展していきます。⑮二番目の暗唱が始まると、鬼は床の上にぐったりと横たわります。

⑯時間が経過すると、シェイファーは作業からゆっくりと遠ざかり、子どもたちは変更のための提案と挿入を何度も繰り返します。⑰「今度はこれをやって、僕はこうするから」といった具合です。⑱この過程においては、作品が整然とした完成に至るとは言えません。事実、往々にして逆の状況になることもあります。⑲しかし、非識字文化社会の芸術においては、修正を繰り返している状態が普通であり、停滞することはその生命に係わるのです。⑳この場合、作品の形と同様に変容の有様が考察されるべきです。㉑本当の即興とはすでに発見されたものではない形式の追求であり、それを演奏の形式にあてはめようとするのは間違っています。㉒生命力とは変容することのできる能力であり、それ以外の何物でもないのです。㉓活動が始まってからお昼のベルが鳴るまでの 2 時間全部を費やして、授業は終わりました。㉔窓越しに、さっきまでお面のものすごい形相やダンス、ギョッとさせられる叫び声、小さなささやきなどを申し分なくやり遂げた子どもたちが校庭を横切つて道を下り、自分の生活へと家路につくのが見えます。